

令和5年度 教育事務の点検・評価報告書 (令和4年度対象)



マンタロウ賞 竹富小2年 鈴木 古今
『お父さんと海』



教育長賞 鳩間中1年 小出 琳夏 『キズナ』



タケートル賞 西表島 河合 悟
『母と息子と夕暮れのまるまぼんさん』

デジタルフォトコンテスト2022
入賞作品



グールクン賞 西表小4年 神保 文香
『みんなつながっている』

竹富町教育委員会

報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、令和4年度における竹富町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果を報告する。

令和5年11月

竹富町教育委員会

■地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

■竹富町教育委員会で扱う事務は、おおむね次のとおりである。

- 1 町立学校等の設置及び統廃合に関すること。
- 2 学級教材、教具の整備に関すること。
- 3 町立学校等の施設、設備及び管理、備品に関すること。
- 4 教育財産の管理及び財産台帳の整備保管に関すること。
- 5 教育委員会事務局及び教育委員会の所管する職員の任免その他、人事に関すること。
- 6 文化財に関すること。
- 7 町史編集に関すること。
- 8 学齢児童、生徒、園児の就学猶予並びに転退学、その他学籍に関すること。
- 9 教科書の採択、給与事務に関すること。
- 10 町立幼稚園に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 社会教育に関すること。
- 13 生涯学習及びスポーツの振興に関すること。
- 14 青少年の健全育成に関すること。

目 次

はじめに	3
教育委員会委員名簿	3
外部評価委員(学識経験者)	3
教育主要施策体系	4
教育委員会の活動	5
(1) 教育委員会の概要	5
(2) 教育委員会の会議等の状況	5
(3) 教育委員の情報収集状況	8
(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置	8
(5) 教育費の状況	9
令和4年度 教育事務の点検評価	10
1 点検評価対象年度	10
2 点検評価内容	10
(1) 幼稚園、学校教育の充実	
(2) 社会教育・スポーツの充実	
(3) 伝統文化の保存と継承	
(4) 町史編集	
(5) 教育行政の充実	
3 点検評価の方法	11
教育事務事業点検評価	12
点検評価の結果一覧表	12
・事務事業点検評価シート	13
教育事務点検総合評価	41
教育委員会の機能充実	41
幼稚園・学校教育の充実	41
新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業	42 ～ 43

はじめに

竹富町教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、本町の教育及び文化の振興に関する大綱を定め、①「自ら学ぶ意欲と豊かな心の育成」②「潤い」と生きがいのある生涯学習のまちづくり③「子育て支援などの課題への対応」④「スポーツ振興」⑤「伝統文化の継承発展及び文化活動の支援」⑥「第2次竹富町海洋基本計画の推進」⑦「世界遺産の学校教育への活用」⑧「自治体DXの推進」を教育目標に教育行政を推進しています。当該目標を推進する施策として、令和4年度に実施した各種事業の中から28事業を選定し、今年度の点検評価を行いました。

評価の方法は、各担当課が各事業の概要等を評価シートにまとめ、教育事務点検評価委員会で内容等の点検及び内部評価を行い、その後、学識経験者で構成される外部評価委員会による各課ヒヤリングを実施し、事業ごとに外部評価を付していただきました。

評価された各事業については、概ね計画どおりに又はそれ以上に執行されているとの評価を受けましたが、同時に様々なご提言をいただいております。

これらの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の教育行政の推進に反映させるよう努めてまいります。

この報告書は、評価の結果と教育委員会の活動状況をまとめ、議会に提出するとともに、公表することで町民の皆様への説明責任を果たし、教育行政の質の向上を図ることを目的に作成したものです。

今後とも町民の皆様の教育行政へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

竹富町教育委員会教育長及び委員

職名	氏名	任期	備考
教育長	佐 事 安 弘	自 令 和 3 年 10 月 1 日 至 令 和 6 年 9 月 30 日	
委 員 (教育長職務代理)	嘉 良 寧	自 令 和 5 年 10 月 1 日 至 令 和 9 年 9 月 30 日	
委 員	松 原 史	自 令 和 4 年 10 月 1 日 至 令 和 8 年 9 月 30 日	
委 員	川 満 晃 弘	自 令 和 4 年 10 月 1 日 至 令 和 8 年 9 月 30 日	
委 員	仲 底 傑	自 令 和 5 年 4 月 1 日 至 令 和 9 年 3 月 31 日	

竹富町教育事務点検評価外部評価委員

氏名	備考
浦 崎 喬	元校長
友 利 始 夫	元校長

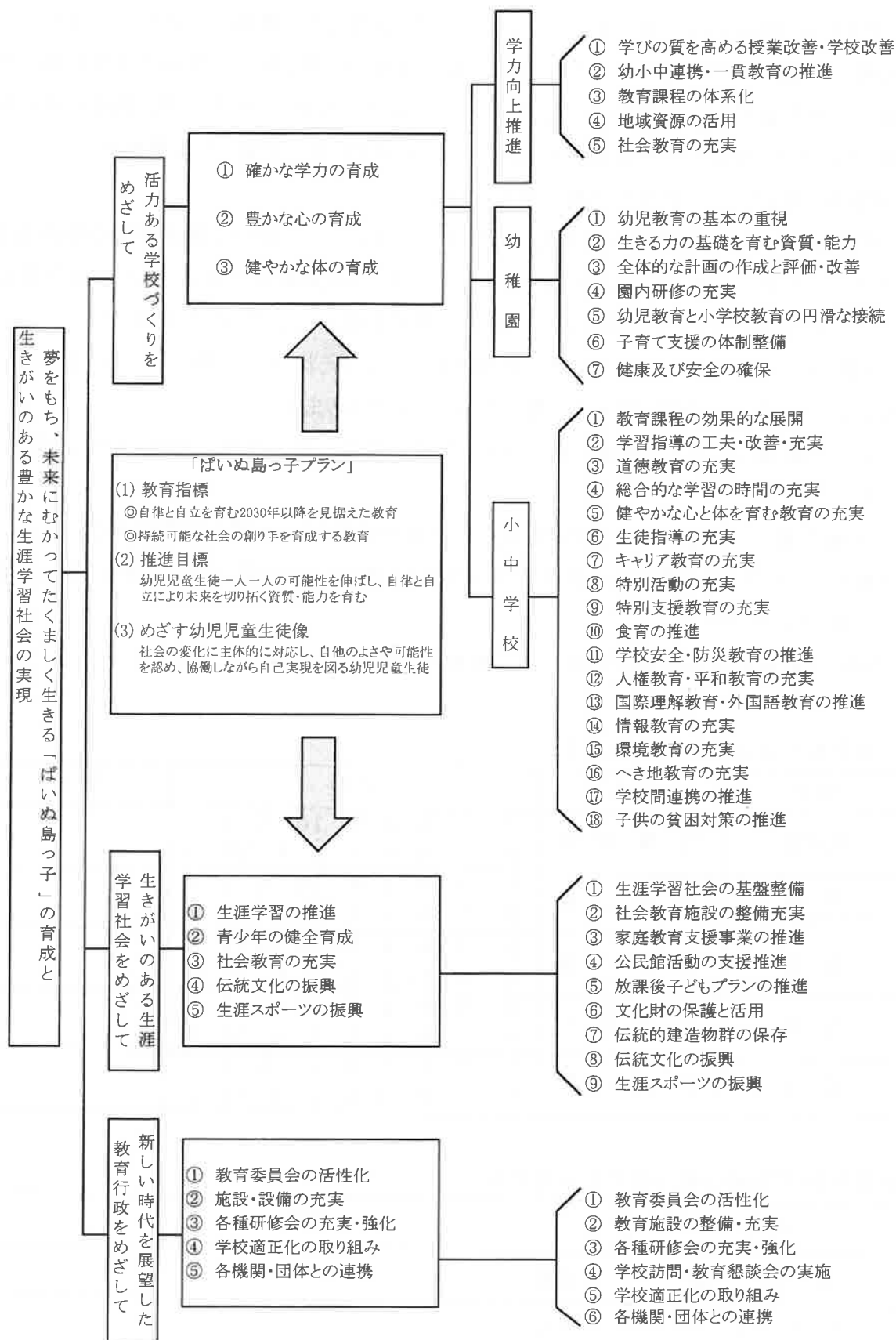
■教育主要施策体系

竹富町教育委員会

【目標】

【努力点】

【努力事項】



1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の概要

教育委員会制度の改革により、平成27年10月1日より教育委員長と教育長を一本化した「教育長」が設置され、教育長と委員(4名)で組織する合議制の実行機関であります。

また、総合教育会議は首長と教育委員会が教育施策について協議・調整の場です。これにより、首長が教育行政に果たす責任や役割が明確になり、首長と教育委員会が協議・調整することにより、これまで以上に両者の連携が図られ、教育施策の推進が可能になります。

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会の代表(会議の主宰者、具体的な事務執行責任者、事務局の指揮監督者)となり、その任期は3年となっています。

(2) 教育委員会の会議等の状況

本町教育委員会においては、奇数月1回の定例会と随時開催の臨時会の開催と自主研修を実施し、事務局と連携しながら施策を推進してきました。

令和4年度も新型コロナウイルスの影響により各種行事が中止、縮小となりましたが、学校支援訪問等により教育行政の推進に努めてまいりました。

沖縄県市町村教育委員会連合会や八重山地区市町教育委員会協議会の総会・研修会等への参加については、オンライン会議等で参加するなど県内各地区の教育委員と意見交換を行い研修を実施して参りました。

教育委員会定例会・臨時会においては、50件の報告・議案を審議いたしました。総合教育会議については、令和4年度は1度開催されています。

令和4年度の会議開催、付議事件及び内容は次のとおりであります。

	開催数	付議件数
定例会	6回	48件
臨時会	1回	2件
計	7回	50件

■会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
第4回 (定例会)	令和4年 5月25日	報告第14号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状行為等の許可・回答について）許可1号	承認
		報告第15号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状行為等の許可・回答について）許可2号	承認
		報告第16号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状行為等の許可・回答について）許可3号	承認
		報告第17号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の国の機関等に関する協議について）竹富町	承認
		報告第18号	臨時代理の承認について（竹富町社旗教育委員の委嘱について）	承認
		報告第19号	臨時代理の承認について（令和4年度町費負担職員人事異動内示）	承認
		報告第20号	臨時代理の承認について（令和4年度町費負担職員人事異動内示（追加分））	承認
		議案第8号	令和4年度竹富町一般会計補正予算（第2号）案について	承認
		議案第9号	竹富町立学校管理規則の一部変更について	可決
第5回 (定例会)	令和4年 7月28日	報告第21号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状行為等の許可・回答について）許可4号	承認
		報告第22号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状行為等の許可・回答について）許可5号	承認
		報告第23号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状行為等の許可・回答について）許可6号	承認
		報告第24号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状行為等の許可・回答について）	承認
		報告第25号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区等保存審議委員の委嘱について）	承認
		報告第26号	臨時代理の承認について（海洋教育推進委員の委嘱について）	承認
		報告第27号	臨時代理の承認について（学校評議員の委嘱について）	承認
		議案第10号	竹富町教育事務の点検評価外部委員の委嘱について	可決
第6回 (定例会)	令和4年 9月27日	報告第28号	臨時代理の承認について（令和4年度竹富町教育支援委員会委員の委嘱について）	承認
		報告第29号	臨時代理の承認について（令和4年度町費負担職員人事異動内示）	承認
		議案第11号	令和4年度竹富町一般会計補正予算（第5号）案について	可決
第7回 (定例会)	令和4年 11月29日	報告第30号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）星野リゾート	承認
		報告第31号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）ソフトバンク株式会社	承認
		報告第32号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）株式会社NTTドコモ	承認
		報告第33号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）株式会社NTTドコモ	承認
		報告第34号	臨時代理について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について）許可15号	承認
		議案第12号	竹富町文化財保護審議会委員の委嘱について	可決

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
		議案第13号	令和4年度竹富町教育事務の点検評価報告について（令和3年度対象事務）	可決
		議案第14号	令和4年度竹富町一般会計補正予算（第10号）案について	可決
		議案第15号	竹富町児童生徒交流施設の管理及び運営に関する規則の一部改正する規則	可決
第1回 （定例会）	令和5年 1月30日	報告第1号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為許可・回答）許可16号	承認
		報告第2号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為許可・回答）許可17号	承認
		報告第3号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為許可・回答）許可18号	承認
		報告第4号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為許可・回答）許可19号	承認
		報告第5号	臨時代理の承認について（竹富町歴史的景観形成地区保存条例の国の機関等に関する協議について）竹富町	承認
		報告第6号	臨時代理の承認について（竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業展示検討委員会設置要綱）	承認
		報告第7号	臨時代理の承認について（竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業展示検討委員会委員の委嘱）	承認
		議案第1号	竹富町史編集委員の承認について（那根真氏（黒島））	可決
		議案第2号	令和4年度竹富町一般会計補正予算（第11号）（教育委員会関係）案について	可決
		議案第3号	令和5年度竹富町一般会計予算（教育委員会関係）案について	可決
第2回 （臨時会）	令和5年 2月17日	議案第4号	令和5年度町費負担職員人事異動（遠隔）について	可決
		議案第5号	令和5年度県費負担管理職人事異動発令について	可決
第3回 （定例会）	令和5年 3月27日	報告第8号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為許可・回答）許可20号	承認
		報告第9号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為許可・回答）許可21号	承認
		報告第10号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為許可・回答）許可22号	承認
		報告第11号	臨時代理の承認について（竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について）森田美穂	承認
		報告第12号	臨時代理の承認について（「真榮の遥拝所」文化財指定（諮問）について）	承認
		報告第13号	臨時代理の承認について（「小浜島のゴバンノアシ」文化財指定（諮問）について）	承認
		報告第14号	臨時代理の承認について（令和5年度内示）	承認
		報告第15号	臨時代理の承認について（令和5年度内示追加分）	承認
		議案第6号	竹富町社会教育委員の委嘱について	可決

(3) 教育委員の情報収集状況

教育委員会は、新型コロナウイルスの影響により、各種研修会等が中止されるなど制限を受けましたが、学校支援訪問、事務局からの教育行政情報収集、専門知識収集のためオンラインによる研修会等への参加、他市町村教育委員会の情報収集及び課題解決の方向性模索のため、教育委員会連合会及び教育長協会などへの参加を通して教育関連情報の収集に努めました。

	内 容	件 数
1	課題施設等の視察	0件
2	学校等支援訪問(施設)	小中学校3、幼稚園1
3	研修会等への参加	1回 (Web0)
4	学校等行事への参加	入学式、卒業式、運動会、 学習発表会、その他
5	会議等への参加(教育長)	64回 (県外0、市内51、町内3、Web3、書面0)
6	その他 (教育委員会月報、時報市町村教委)	

(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置(令和5年3月31日現在)

課名	職名	係名	人員
総務課	課長1 課長補佐1	総務係	2 (3)
		施設係	2 (0)
教育課	課長1 課長補佐1	教育係	3 (6)
社会文化課	課長1 課長補佐1	社会教育係	1 (1)
		社会体育係	1 (1)
		文化財係	3 (3)
		町史編集係	2 (1)
合計	6		14 (15)

()は再任用、会計年度、ALT等

(5) 教育費の状況

■教育費の推移

項目／年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育費	1,793,248 千円	1,431,315 千円	996,212 千円	959,069 千円	916,982 千円
1人当たり教育費	425,041 円	337,734 円	236,069 円	230,490 円	218,745 円
各年度3月末人口	4,219 人	4,238 人	4,220 人	4,161 人	4,192 人

■令和4年度教育費の内訳

(歳入)

1	分担金及び負担金	83 千円
2	使用料及び手数料	6,242 千円
3	国庫支出金	7,585 千円
4	県支出金	72,229 千円
5	財産収入	19 千円
6	寄付金	1,000 千円
7	繰入金	0 千円
8	諸収入	21,403 千円
9	町債	55,220 千円

(歳出)

1	総務管理費	5,165 千円
2	沖縄振興特別推進交付金事業	63,854 千円
3	教育総務費	157,314 千円
4	小学校費	172,074 千円
5	中学校費	147,253 千円
6	幼稚園費	50,092 千円
7	社会教育費	226,007 千円
8	保健体育費	95,202 千円
9	文教施設災害復旧費	0 千円
10	基金費	21 千円

■令和4年度の主な事業(教育関連)

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- 竹富町海洋教育推進事業
- 学力向上推進
- 竹富町内学校ICT支援員派遣事業
- 公立学校情報機器整備事業
- 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 幼稚園預かり保育事業
- 特別支援教育支援員配置事業
- 外国語指導助手(ALT)派遣事業
(外国青年招致事業含む)
- 町外等派遣費補助事業
(沖縄振興特別推進交付金)
- 離島高校生修学支援事業
(離島高校寮生修学援助奨励事業)
- ふるさと応援奨学金
- 学校給食担当者研修会
- 学校給食費賄材料費物価高騰分支援事業
- 学校給食費補助事業

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 放課後子ども教室委託事業
- 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 社会教育団体育成補助事業
- 竹富町球技大会
- 国土交通大臣杯全国離島中学生野球大会
- 竹富町やまねこマラソン大会

(3) 伝統文化の保存と継承

- 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金)
- 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業
- 埋蔵文化財の保護
- 史跡等活用整備事業
(史跡の調査及び修理工事・説明板設置)
- 史跡等活用整備事業
(下田原城跡私有地の公有化)

(4) 町史編集

- 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 学校施設等の維持管理

令和4年度 教育事務の点検評価

1 点検評価対象年度 令和4年度

2 点検評価内容

点検評価内容については、教育事務点検評価委員会による内部評価及び学識経験者等による外部評価とし、「幼稚園・学校教育の充実」、「社会教育・スポーツの充実」、「伝統文化の保存と継承」、「町史編集」、教育行政の充実、「教育事務点検総合評価」について行った。

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- 1 竹富町海洋教育推進事業
- 2 学力向上推進
- 3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業
- 4 公立学校情報機器整備事業
- 5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 6 幼稚園預かり保育事業
- 7 特別支援教育支援員配置事業
- 8 外国語指導助手(ALT)派遣事業(外国青年招致事業含む)
- 9 町外等派遣費補助事業(沖縄振興特別推進交付金)
- 10 離島高校生修学支援事業(離島高校生修学援助奨励事業)
- 11 ふるさと応援奨学金
- 12 学校給食担当者研修会
- 13 竹富町学校給食費賄材料費物価高騰分支援事業
- 14 学校給食費補助事業

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 1 放課後子ども教室委託事業
- 2 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 3 社会教育団体育成補助事業
- 4 竹富町球技大会
- 5 国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会
- 6 竹富町やまねこマラソン大会

(3) 伝統文化の保存と継承

- 1 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金)
- 2 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 3 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業
- 4 埋蔵文化財の保護
- 5 史跡等活用整備事業(史跡の調査及び修理工事・説明板設置)
- 6 史跡等活用整備事業(下田原城跡私有地の公有化)

(4) 町史編集

- 1 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

(6) 教育事務点検総合評価

- ・ 教育委員会の機能充実
- ・ 幼稚園・学校教育の充実

(7) 新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業

- 1 小学校集団宿泊学習
- 2 竹富町民運動会

3 点検評価の方法

評価については、事業種目ごとに点検評価シートを作成し、評価基準を設定して、複眼的視点による評価を試みた。評価における評価基準及び総合評価基準については次のとおりとする。

(1) 評価基準

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い。	投入コストに比べ活動量が非常に高い。	成果が非常に高い。	事業規模拡大が望まれる。
3	教育委員会が関与する妥当性が高い。	投入コストに比べ活動量が高い。	成果が高い。	事業規模の維持が望まれる。
2	教育委員会が関与する妥当性が低い。	投入コストに比べ活動量が低い。	成果が低い。	事業規模の縮小が望まれる。
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い。	投入コストに比べ活動量が非常に低い。	成果が非常に低い。	廃止又は休止が望まれる。

(2) 点 数

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

教育事務事業点検評価

令和4年度教育事務点検評価の結果一覧表

主要施策	事業名	担当課	内部 評価	外部 評価	ページ
幼稚園・学校 教育の充 実	1 竹富町海洋教育推進事業	教育課	A	A	13
	2 学力向上推進	〃	A	A	14
	3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業	〃	A	A	15
	4 公立学校情報機器整備事業	〃	A	A	16
	5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	〃	A	A	17
	6 幼稚園預かり保育事業	〃	A	A	18
	7 特別支援教育支援員配置事業	〃	A	A	19
	8 外国語指導助手(ALT)派遣事業 (外国青年招致事業含む)	〃	A	A	20
	9 町外等派遣費補助事業 (沖縄振興特別推進交付金)	総務課	A	A	21
	10 離島高校生修学支援事業 (離島高校生修学援助奨励事業)	〃	A	A	22
	11 ふるさと応援奨学金	〃	A	A	23
	12 学校給食担当者研修会	〃	A	A	24
	13 竹富町学校給食賄材料費物価高騰分支援事業	〃	A	A	25
	14 学校給食費補助事業	〃	A	A	26
社会教育・ スポーツの充 実	1 放課後子ども教室委託事業	社文課	A	A	27
	2 生涯学習委託事業(社会教育学級)	〃	A	A	28
	3 社会教育団体育成補助事業	〃	A	A	29
	4 竹富町球技大会	〃	A	A	30
	5 国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会	〃	A	A	31
	6 竹富町やまねこマラソン大会	〃	A	A	32
伝統文化の 保存と継承	1 文化財美化保全事業 (沖縄振興特別推進交付金)	〃	A	A	33
	2 伝統的建造物群保存地区の景観保全	〃	A	A	34
	3 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業	〃	A	A	35
	4 埋蔵文化財の保護	〃	A	A	36
	5 史跡等活用整備事業 (史跡の調査及び修理工事・説明板設置)	〃	A	A	37
	6 史跡等活用整備事業 (下田原城跡私有地の公有化)	〃	A	A	38
町史編集	1 町史編集事業	〃	B	B	39
教育行政の充実	1 学校等施設の維持管理	総務課	A	A	40
教育事務点 検総合評価	・ 教育委員会の機能充実	-	-	A	41
	・ 幼稚園・学校教育の充実	-	-	A	41

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町海洋教育推進事業	担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	12,869 千円	3,211 千円	2,216 千円
事業概要	島嶼型海洋自治体である本町の児童生徒が、海洋についての理解と関心を深め、将来にわたり海洋の恵沢を享受できるよう海洋教育を推進する。		
(1) 対 象	竹富町内小中学校		
(2) 目 的	海洋教育を通して竹富町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海と共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する。		
(3) 事業内容	令和3年度で海洋教育パイオニアスクールプログラムの助成が終了し、今年度から町単独事業となるが、持続可能な海洋教育を推進する。		
(4) 成果目標	令和4年度の成果目標 ①各種事業の実施 ②各校へ竹富町海洋教育推進事業補助金の交付 ③海洋教育推進委員会・海洋教育担当者協議会の開催		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①今年度は、海洋教育週間を海洋教育月間と改めた。月間企画として「海のデジタルフォトコンテスト」の開催を実施。また、海洋教育クリーン活動、海洋教育サミット、海洋教育カレンダー作成を実施した。 ②一律10万円を町内13校へ補助金交付することができた。ほとんどの学校が補助金を活用していた。 ③今年度は、海洋教育基本計画の改訂もあり、海洋教育推進委員会は4回、海洋教育担当者協議会は4回開催した。		
	A	【課題等】 この事業を推進するにあたり、学校の協力が必要だが、今年度、教育委員会及び学校現場でも担当者が変わり、引継ぎがうまくいっていない部分があったので、学校現場では、人材リストを作成し、引継ぎ漏れを防ぐ。 今年度、町単独の事業となったため、予算に限りがあり、補助金の金額の減少や海洋教育サミットの規模縮小などの事業に影響があり、学校現場から厳しい声もあった。	
外部評価	「竹富町海洋教育副読本」から各学校の特色ある取り組みを見ることができたが、地域行事への参加についてまとめた学校については海洋教育との関りを明示することで海洋教育の推進に結び付けることができるといいます。竹富町海洋基本計画の基、町単独事業として充実・発展させるためにも学校間の情報共有(サミット)や担当者会議等は継続させ、担い手としての児童生徒の育成に努めて下さい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学力向上推進		担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	977 千円	1,236 千円	1,289 千円	
事業概要	町内を9つの地区に分け、各公民館長を委員長とした地区学力向上推進委員会を設置し、学校・家庭・地域・行政が連携して、子ども達の「生きる力」を育み、将来に夢を持ち目標を立て努力し、社会の創り手となる人材育成を推進する。			
(1)対象	幼児・児童・生徒、教職員、PTA、地域			
(2)目的	学校、家庭、地域、行政が一体となって、幼児・児童・生徒一人ひとりに「生きる力」につながる「確かな学力」の向上を図る取組みを推進する。			
(3)事業内容	1.町学力向上推進委員会及び実践報告会(誌面開催) 2.各地区学力向上推進委員会総会及び実践報告会 3.教育講演会 4.標準学力調査、中3実力テスト実施 5.学校支援訪問等での指導助言			
(4)成果目標	① 竹富町学力向上推進要項に基づき、「令和4年度版ばいぬ島っ子プラン」を推進し、9つの各推進委員会の取組充実を図る。 ② 全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査等で全国平均・県平均正答率を上回る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 9つの各地区においては、コロナ禍でも感染対策を講じながら地域の物的資源・人的資源を結びつけた地域総ぐるみの学力向上が推進された。 ② 学校支援訪問等において、授業についての指導助言を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図ることができた。 ③ 中3学力調査及び県学力到達度調査において、小学校・中学校ともにほとんどの学年・教科で県平均正答率を上回った。 ④ 町内の中学3年生全員の進路が確定した。			
	A	【課題等】 ① 学習指導要領全面実施に向けた教育課程編成の工夫改善 ② 地域に開かれた教育課程(多様な人々とのつながりや地域・社会と結びついた授業づくりの見直し。主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践の推進 ③ 自律・自立教育(自分で考え、自分で判断し、自分で行動することができる)の徹底 ④ コロナ禍における諸活動の工夫・実践		
外部評価	地域ぐるみの継続した学力向上の取り組みは日常化し、その成果として児童生徒の学力の定着率は高いが中学卒業後の新たな環境下では「確かな学力」の定着も必要です。学力(知識や技能)はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等を個性を生かす教育の中ではなくむことが肝要です。(自立と自律を身につける)			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町内学校ICT支援員派遣事業		担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	7,729 千円	5,525 千円	8,743 千円	
事業概要	学校現場において、教育ICT機器の効果的な授業活用や日常的に発生する機器の不具合等の問題に迅速に対応することが望まれており、十分な知識と対応力をもつICT支援員を町内の各小中学校へ派遣する。			
(1) 対 象	竹富町内小中学校			
(2) 目 的	児童生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業を実現するため、竹富町内の各小中学校へICT支援員を派遣する。			
(3) 事業内容	各小中学校へICT支援員を派遣し、以下の業務を行う。 ①ICT機器のメンテナンスや、管理・運用に関する助言 ②ICT機器に関する教員向けの研修会の実施 ③ICT機器の活用実績の集計、分析及び教育委員会への定期的な報告等			
(4) 成果目標	①各校へ月に1回以上のICT支援員派遣 ②各校における教育ICT機器の適切な管理・運用 ③情報モラルの指導・助言			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 令和4年度は、委託業務でのICT支援員が1名体制でスタートし、新型コロナの影響はあったが、各校への派遣回数は少なかったが、概ね月1回は学校へ訪問ができたので、当初の目標が達成された。			
	【課題等】 令和5年からは、早急にICT支援員を採用し、2名体制で学校ICT支援業務ができるように取り組む。			
外部評価	児童生徒の学習形態や授業づくりの改善を図り学力向上に資するためにICT支援員の活用は不可欠です。機器のメンテナンス等については、事項「公立学校情報機器整備事業」と連携した取り組みで児童生徒の学びの充実を図ってください。			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	公立学校情報機器整備事業	担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	24 千円	21,317 千円	2,696 千円
事業概要	GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器整備を実施したが、町内各小中学校へ遠隔教育等に対応する情報機器を整備する。		
(1) 対 象	竹富町内各小中学校		
(2) 目 的	多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指す国の施策「GIGAスクール構想」の実現に向け、町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器を整備する。		
(3) 事業内容	・GIGA端末の管理・整備 ・電子黒板の設置 ・Webカメラ・書画カメラの設置		
(4) 成果目標	・GIGA端末の管理・整備 ・各小中学校へ電子黒板の設置 ・各小中学校へWebカメラ・書画カメラの設置		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 今年度は、各学校において新型コロナウイルス感染症の影響による休校又は、夏休み・冬休みなどに端末持ち帰りも実施し、児童生徒の学びをある程度保障することができた。 町内の小中学校へ電子黒板、Webカメラ及び書画カメラを購入し、各学校へ配備した。		
	【課題等】 休校等によるオンライン学習に備えて整備したモバイルWi-Fiについては、通信費の確保や家庭への貸出に関する仕組みづくりを行い、ICT機器を活用した遠隔学習が行える環境を整える必要がある。 また、各小中学校へ電子黒板を設置したが、以前に配備して経年劣化等の電子黒板もあり故障が増えてきており、修繕するか購入するか検討する必要がある。		
外部評価	情報機器の整備・充実が学習指導要領に基づく授業改善や児童生徒の学習の保障に必要不可欠です。また、将来を担う児童生徒にとって国家戦略の「SDGsと連動するSociety 5.0の推進」のためにもITリテラシーは身につけさせたい資質・能力ですので、DX課等と連携した情報機器の整備充実も図ってみてください。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	14,749 千円	14,631 千円	16,189 千円
事業概要	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮の運営を行う。		
(1) 対 象	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮へ入寮する児童生徒(小4～中3)		
(2) 目 的	学校の存続が危ぶまれる鳩間島において、留学を支援する鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮を運営し、留学生を受け入れることで安定的に児童生徒を確保すると共に、地域の活性化を図る。		
(3) 事業内容	①寮監の雇用(地域おこし協力隊) ②留学生の受入(定員8名) ③寮監や留学生による地域活性化(地域行事等への積極的な参加)		
(4) 成果目標	留学生の受け入れ(定員8名)		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 今年度は、入寮生8名を受け入れることができた。年度途中で1名退寮もあったが、7名無事に1年間の留学を修了することができた。令和5年度は、継続入寮が4名、新規入寮が2名あり、合計6名で入寮を迎える。 寮監については、今年度は集落支援員、地域おこし協力隊の制度活用により3名体制で運営することができた。 地域行事への参加については、年度当初は新型コロナウイルス感染症の影響で行事が中止になったが、次第に緩和されると、地域と交流することが多くなった。		
	【課題等】 冬場になると、船舶欠航が多くなり、食材の供給が滞ることがあり、委員会職員が大原港から上原港まで食材を運搬することがあった。食材発注のタイミングや賞味期限が長い食材を多めに発注するなど工夫する必要がある。 閉寮期間が条例で定められており、閉寮期間中に豊年祭などの地域行事があった場合、入寮生は寮が閉まっているため現行の状態だと民宿に泊まるなどの対応になるので、留学の目的にそぐわない部分がある。閉寮期間について見直す必要があると考える。		
外部評価	3人態勢の寮運営により子どもたちの安心安全な生活が保障されていますので、将来的にも安定した体制の構築に期待します。また、夏季休業中の寮生の地域への参加を保障するために閉寮期間の見直しについてご検討をお願いします。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	幼稚園預かり保育事業	担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	9,947 千円	10,479,862 千円	9,068 千円
事業概要	幼稚園教育時間終了後、幼稚園管理下において希望する在園児を預かり保育することにより、幼児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育て支援を図る。		
(1)対象	幼稚園教育時間終了後、家庭内保育が困難な幼児(4歳、5歳)		
(2)目的	幼児の心身の健全な発達及び保護者の子育て支援		
(3)事業内容	幼稚園教育時間終了後から午後5時までとし、また、夏季休業時は、午前8時30分から午後5時までの預かりを実施。		
(4)成果目標	保護者のニーズにあった保育を推進する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 保育料無償化と、保護者のニーズに寄り添った保育で、高い利用率を維持できている。 ② 園児の実態に応じ、保育内容も工夫して、充実させることができた。(季節に応じた遊びや、地域の環境を生かした活動等)		
	A	【課題等】 ① 保育サービスのニーズが高く、職員が研修等で預かりを休みにすることに対し、保護者からできるだけ避けてほしいとの声がある。 ② 人材確保が困難。	
外部評価		人材確保が喫緊の課題という厳しい状況下でも、保護者のニーズに寄り添う保育の推進が図られているので、この成果を維持するために、子育て支援員(研修済み)の活用や夏季休業中には幼稚園教諭教育課程及び保育士養成課程を履修中で教育・保育に関して一定の知見を有する学生を活用する等の人材確保も検討する余地はあると思います。	
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	特別支援教育支援員配置事業	担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	14,098 千円	20,219 千円	22,760 千円
事業概要	町内幼稚園・小学校・中学校に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に係る支援員を配置する。		
(1)対象	支援員の支援を要する町内の園児・児童・生徒		
(2)目的	発達障害等により学習や生活面に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に対して特別支援教育支援員を配置し、児童生徒に応じた適切な支援を行う。		
(3)事業内容	①各園、小中学校からの支援員要請を受け、概ね1日6時間、週30時間の間で、学校長の指導の下、担当教員と協力し、対象園児児童生徒に学習支援を中心に学校生活上の介助等、適宜に支援を行う。		
(4)成果目標	当該幼児児童生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮、支援の工夫等による学ぶ意欲や社会性の向上。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 支援員の配置により、支援が必要な園児・児童・生徒の適切な支援が行われ、落ち着いて学習に向かうことにつながっている。また、支援員配置により、担任の負担が軽減され、安定した学級経営が図られた。 ② 幼稚園・小中学校における特別支援教育に関する教職員の意識の向上にも繋がり、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の理解と実践に繋がっている。 ③ 町独自で琉大教授を講師に、支援員研修会を開催することで支援員の質の向上が図られた。		
	A	【課題等】 ① 例年、特別支援教育支援員の人材の確保が難しく予算を確保しても支援員配置ができない学校がある。	
外部評価	学校のニーズに対応した人材配置ができており児童生徒への個に応じた適切な支援体制の確立が見て取れます。これからも、学校地域連携事業の観点から地域人材を活用した人材確保を継続し途切れのない支援体制により個に応じた支援の充実をお願いします。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業 (外国青年招致事業含む)	担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	13,887 千円	14,617 千円	14,966 千円
事業概要	町内幼・小・中学校にALTを派遣することにより、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図ることを推進する。		
(1) 対 象	竹富町内の幼稚園、小学校、中学校の幼児、児童、生徒		
(2) 目 的	中学校の英語教育と国際理解教育の充実・推進を図るとともに、小学校での英語活動、国際理解教育の充実に資する。		
(3) 事業内容	1. 中学校における英語科授業の補助 2. 小学校及び幼稚園における外国語活動等の補助 3. 英語教材作成の補助及び英語能力関係事業などへの協力 4. 幼・小・中学校への特別活動及び課外活動への協力		
(4) 成果目標	①町内の幼・小・中学校にALTを派遣し、幼児児童生徒に生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供する。 ②幼児児童生徒の外国語(英語)への興味・関心の向上を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①各小・中学校へ年間24回、幼稚園へ年間10回ずつALTを派遣できた(船便の欠航等により派遣できない場合は、オンラインを活用した)。 ②児童生徒へのアンケートの結果から「ALTの授業を受けて、英語が楽しいと思いますか。」の問いに対し、約9割の児童生徒が「とても楽しい」「楽しい」と回答していた。このことから、ALTの派遣により児童生徒の外国語(英語)への興味・関心が高まっていることがわかる。		
	【課題等】 児童生徒の外国語(英語)への興味・関心を更に高めるため、安定した授業の実施が重要となるため、船便欠航などで派遣できない場合は、ICT機器を活用しオンライン授業を行うなど、安定した授業を実施できるように整備する。		
外部評価	船便欠航等で派遣できない場合でもオンラインを活用し、生きた外国語に触れる機会が計画的に保障されている。学習指導要領に示された英語教育や英語活動の機会均等が図られているので、これからも本事業の継続・充実をお願いします。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町外等派遣費補助事業 (沖縄振興特別推進交付金)		担当課	総務課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	6,769 千円	9,367 千円	9,198 千円	
事業概要	竹富町の児童生徒の大会等への参加に係る派遣費について、交付要綱にもとづき補助金として交付する。			
(1) 対 象	竹富町立小中学校に在籍する児童生徒			
(2) 目 的	児童生徒のスポーツ等の各種大会等への派遣費を補助し、保護者の負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成に寄与し、沖縄本島等と離島の格差是正を図る。			
(3) 事業内容	竹富町立小中学校の児童生徒の大会等への派遣にかかる経費のうち、船賃(実費)・宿泊費(上限あり)・航空賃(上限あり)を要綱にもとづき補助金として交付する。			
(4) 成果目標	町外等派遣に係る保護者負担を軽減するとともに、大会等参加により他島の児童生徒との交流や島内よりも高いレベルの競技者との試合等町内ではできない経験をすることで、子どもたちの心と体の健やかな育成を促す。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 本事業については、継続的に実施することにより学校・団体・個人にも周知され、多数の児童生徒に活用されている。大会での勝利や八重山代表選抜等、子どもたちの活躍も見られる。また、ダンスコンテストやSUP競技などが見受けられスポーツの幅が広がりを見せている。学校や保護者への成果指標アンケートでは、「町内ではできない経験をすることができた」など児童生徒により良い回答が得られている。			
	【課題等】 ①代表選抜や、地区大会での成績、天候その他による延期や中止等、予測がつきにくい要素も多くあるので、財源となる沖縄振興特別交付金担当者と連携し、現状に合わせて柔軟な予算の増減や配分が必要とされる。 ②コロナウイルス感染拡大影響により中止となる大会も減りつつあり、実績は前年度より増額した。令和5年度も同等か、さらに多くの事業費が見込まれる。			
A				
外部評価	本事業で保護者の負担が軽減され、本町の児童生徒が様々な大会やコンテストへの参加が可能になり、児童生徒の夢実現の一助となっており、成果がある事業として評価したい。なお、大会やコンテストの延期や中止で予算の組み換えが必要となるため、常に先を見据えた予算を確保して欲しい。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	離島高校生修学支援事業 (離島高校寮生修学援助奨励事業)	担当課	総務課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	(修学支援) 14,717 千円	(修学支援) 17,114 千円	(修学支援) 23,650 千円
	(寮生) 6,196 千円	(寮生) 4,495 千円	(寮生) 5,390 千円
	(合計) 20,913 千円	(合計) 21,609 千円	(合計) 29,040 千円
事業概要	高等学校教育の円滑な修学にあたり、通学に要する交通費、及び居住費を助成する。		
(1) 対 象	保護者が本町に住所を有し且つ在住しており、その対象となる生徒が町立中学校を卒業し高等学校に修学している者		
(2) 目 的	保護者の経済的負担の軽減、教育の機会均等により地域社会に有為な人材を育てるため、通学費等の一部を補助金として交付する。		
(3) 事業内容	○修学支援： 通学に要する経費、及び居住費(アパート、下宿、寮費等) 上限額24万円を補助。(補助対象事業： 国庫1/2、県費1/4、町1/4(起債)) ○寮費： 修学支援費の上限24万円に満たない差額分を、補助金として交付する。		
(4) 成果目標	高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等と地域社会に有為な人材を育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 年間3回の申請時期を設け、生徒1人あたり24万円(上限)を補助することで、高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等が図られた。また、寮費のうち食費が対象外経費のため、離島高校生修学支援補助金の上限額に満たない差額分について、離島高校寮生修学援助奨励金交付事業で補助金として交付することで、寮生の修学を援助し奨励した。		
	A	【課題等】 町内(島内)に高校が未設置であり、石垣市内の県立3高校に設置のある学科や部活動が限られていることから、年々八重山郡外への進学も増えている。多くの高校生が寮やアパート・下宿での生活を余儀なくされるため、保護者負担を軽減し、竹富町の子どもたちに進路選択の自由と十分な学びの機会を確保する必要がある。	
外部評価	町内生徒の進路選択が多岐になり郡外への進学が増えるにつれ、本事業は保護者の負担軽減を図るための重要な事業である。特に対象外経費の食費に関する予算確保は、本町の努力が多いに必要になってくる。地元で高校が無いと、寮生活やアパート生活を強いられる本町の生徒が安心して勉学に励み、自立の道を為すためにも継続して本事業を進めるべきである。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ふるさと応援奨学金		担当課	総務課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	4,800 千円	5,400 千円	7,200 千円	
事業概要	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。			
(1) 対 象	竹富町に1年以上住所を有する者の子、または扶養にある者			
(2) 目 的	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。			
(3) 事業内容	奨学金を給付する期間は、正規の終業期間とし、月額50,000円とする。 就職する期間については、最低、正規の修業期間の2倍の期間とする。			
(4) 成果目標	専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給することで、その人材育成を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 R4年度9名の対象者へ支給を実施した。 継続的な実施により事業が周知され、R5年度募集には5名の応募者があり、選考委員会により3名を奨学生として決定した。			
	【課題等】 引き続き制度の周知に努め、必要とされる学生に支給することで、本人及び保護者の経済的負担を軽減し、竹富町の将来を担う人材育成に寄与していきたい。			
外部評価	離島へき地であるため、専門職の確保や定着は大きな課題としてこれまで取り上げられてきた。この解決方法として人材育成を図ることが急務であり、本事業を有効的に活用することが求められる。年度毎に予算が増額されてきており、多くの生徒が本事業を活用することが望まれるため、更に予算確保に努めると共に本事業の意義等の説明を中学校で行うことも必要であり、併せて、この事業を通して卒業後に地域に貢献・活躍する人々の様子をマスコミに公表することも制度の充実につながると思う。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校給食担当者研修会		担当課	総務課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	67 千円	209 千円	242 千円	
事業概要	食事は健康の保持・増進、疾病予防の基本であり、食事づくりに携わる者の役割は大きい。衛生管理対策の徹底等、調理員の業務の再認識及び再確認をし、より良い給食業務の推進を図る。			
(1) 対 象	町内学校給食調理従事者等			
(2) 目 的	学校給食調理業務に携わる職員等を対象に研修会を行い、衛生管理についての知識・技術向上と調理員間の交流及び情報共有を図る。			
(3) 事業内容	学校の夏期休業期間を利用し、沖縄県環境科学センターより講師を招き、衛生管理等についての研修会を行う。			
(4) 成果目標	調理施設における衛生管理・食中毒対策について、研修会を通して学習し知識・技術の向上を目指すとともに、調理員間の交流及び情報共有により、安心安全な給食の提供を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 毎年、給食提供のない期間を利用し、衛生管理に係る研修会を開催している。本町では単独調理場、共同調理場が数箇所あり、各調理員等の交流を行うことが難しいため、年に1度の研修会時に職員同士の親睦を深め課題や問題について相談しやすい体制づくりをおこなっている。令和4年度はHACCPの考え方を取り入れた衛生管理計画策定及び標準作業手順書の作成支援業務委託の一部として、年度末(令和5年3月)HACCPの考え方及び作成した標準作業手順書の内容に係る研修会を、2部構成として第1部を経験の浅い職員向けの初歩的な内容で開催することができた。			
	【課題等】 研修の場、情報共有の場を増やす必要があると考えるが、給食担当者(調理員)の業務のない期間内で各島の行事日程等考慮の上調整をしないといけない(島によっては石垣に一泊する必要や傭船利用が必須となる)ため、複数回の開催がむずかしい。また、各調理員によって調理業務に携わる年数にも幅があるが、年数に応じたレベル別の内容での研修開催が行いづらいのが課題である。			
外部評価	長引くコロナウイルス感染症などにより、学校給食関係者に求められる役割や資質能力は複雑化している。よってHACCPについての理解を深め日頃の衛生管理を徹底し、栄養管理についても知識のアップデートを行い、よりよい衛生管理・栄養管理・食育に繋げるために、担当者研修会の充実が必要である。本研集会が給食のない時期に行われているが、日程等のやり繰りに課題を抱えており、その解決が望まれる。DX化が進んでいる今日、オンライン研修へのシフトが多いに必要であり、その研修内容に関しても料理の実践や衛生管理等がオンラインでも可能なように工夫が望まれる。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町学校給食費賄材料費物価高騰分 支援事業	担当課	総務課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	0 千円	1,940 千円	2,374 千円
事業概要	食材等の物価高騰による学校給食費賄材料費の不足分については、保護者から追加徴収するのではなく町が補助をして各調理場の割当額に上乗せする。		
(1) 対 象	竹富町立小中学校の学校給食賄材料費		
(2) 目 的	コロナ禍において学校給食賄材料購入は食品の物価高騰影響により厳しい状況にあり、本来であれば高騰分の追加徴収が必要だがそれをせず保護者等納入義務者に経済的負担をかけることなく、栄養バランスのとれた十分な量の給食の安定的提供を確保し、児童生徒及び教職員等の健やかな心身の維持・育成に寄与する。		
(3) 事業内容	食材等の物価高騰による学校給食費賄材料費の不足分については、保護者から追加徴収するのではなく町が補助をして各調理場の割当額に上乗せする。		
(4) 成果目標	(賄材料費*物価高騰指数:食料)分について、学校給食費として保護者から追加徴収せず、町が100%補助をして各調理場の割当額に上乗せする。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 食材等の物価高騰による学校給食賄材料費の不足分(賄材料費33,622,000円-町単費補助4,216,600円)*物価高騰指数:食料6.6%=1,940,000円)について学校給食費の追加徴収は行わず、町が100%補助をして各調理場の割当額に上乗せすることにより、保護者等納入義務者に経済的負担をかけることなく、栄養バランスのとれた十分な量の給食の安定的提供を確保し、児童生徒及び教職員等の健やかな心身の維持・育成ができた。)物価高騰指数:食料は、沖縄県統計課8月発表資料にもとづく)		
	【課題等】 食材を含めた物価高騰はとどまることなく続き、今後も賄材料費の不足が予想されるところではあるが、事業は新型コロナ臨時創生交付金を財源としており、この交付金は恒久的なものではないことから、事業継続の見通しが立たない。保護者から徴収する学校給食費の金額調整を含め、学校給食費の歳入(交付金・補助金/納入義務者からの徴収/町単費)と歳出(賄材料費)の構成を慎重に検討していく必要がある。		
外部評価	物価高騰が続く社会情勢を考えると賄材料費の不足は喫緊の課題であると考えられる。特にこの予算の出どころが恒久的な予算ではなく、事業継続の見通しが付かないことは理解できる。今後は保護者の負担をどう軽減するかを考える必要があり、保護者からの徴収になれば、保護者に対してきめ細かな説明が必要となってくる。予算確保の厳しさはあるが負担軽減のための方策を生み出して欲しい。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町学校給食費補助事業		担当課	総務課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	0 千円	18,440 千円	16,470 千円	
事業概要	令和4年度竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費を全額免除し、既に納付された金額については全額還付する。			
(1) 対 象	竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費納入義務者(保護者)			
(2) 目 的	竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費を全額免除することにより保護者を経済的に支援し、長引くコロナ禍の物価高騰の影響で厳しい状況にある子育て世帯の負担軽減を目的とする。			
(3) 事業内容	令和4年度竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費を全額免除し、既に納付された金額については全額還付する。			
(4) 成果目標	学校給食費の免除100%、既納付額の還付100%			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 竹富町児童生徒給食費免除事業実施要綱第3条、第4条及び第5条の規定にもとづき、全278世帯、合計18,552,140円(執行率100%)の児童生徒学校給食費を免除し、財源となるコロナ臨時創生交付金の交付決定後の事業スタートとなり年度途中での免除となったため既に納付された給食費については272世帯に6,514,300円(執行率100%)を還付することで、長引くコロナ禍の物価高騰の影響で厳しい状況にある子育て世帯の経済的負担軽減に寄与した。			
	A	【課題等】 子育て世帯の経済的負担軽減のため学校給食費の無償化を実現することが望まれているが、事業は新型コロナ臨時創生交付金を財源としており、この交付金は恒久的なものではないことから、事業継続の見通しが立たない。沖縄県からも給食費無償化についてはヒアリングがあり、将来的には県から何らかの財源が確保されるような流れもあるが、その際積算基礎としては保護者からの徴収分のみか町単費補助での上乗せ分も含まれるのか、または県内統一の一食単価となるのか(竹富町のような小規模調理場ではコスト高となることを県に理解いただきたい)等、情報共有に努め、今後の給食費月額等慎重に検討する必要がある。		
外部評価	本事業に関しても恒久的な予算ではなく、継続の見通しが立たないことは理解できる。今後は県の動向も踏まえて、保護者の負担軽減の方法を考え教育行政としてどう課題に向き合っていくかを全課で考えて欲しい。給食費の保護者からの徴収に戻るのであれば、きめ細かな説明を行い保護者の理解を得ることが重要だと考える。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	放課後子ども教室委託事業		担当課	社会文化課
事業費	令和3年度実績額	令和4年度実績額	令和5年度予算額	
	663 千円	761 千円	1,150 千円	
事業概要	放課後等に学校の施設(余裕教室・体育館等)を利用して、子どもたちが安全かつ安心して活動できる拠点を設け、地域住民の参画を得て、学習活動や様々な体験・交流活動を通して地域社会の中で、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。			
(1)対象	教室を委託設置した校区内の小中学生を対象			
(2)目的	放課後の子どもたちの、安全で健やかな活動場所の確保を図る。			
(3)事業内容	【令和4年度実施団体名】 ①黒島小中学校(黒潮っ子放課後子ども教室) ②鳩間小学校(鳩間放課後子ども教室) ③竹富小中学校(こぼし放課後子ども教室) ④小浜小中学校(まいふなっ子放課後子ども教室) ⑤上原小学校(上原ドリームこども放課後教室) ※国庫補助=5教室			
(4)成果目標	・ 地域の方々の協力を得て、学習活動、文化、スポーツ活動に取り組むことにより、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ・ 学校・家庭・地域による共同の取組により、「地域の子どもは地域で育てる」との環境及び意識の向上を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 学校と地域が協力し、放課後の子どもたちの安心安全な居場所を確保するとともに、スポーツ、伝統芸能の習得、教科の予習復習等、有意義な各種活動を行えた。地域住民の方々がボランティアや各種活動の講師として参加することにより、地域との連携及びコミュニケーションが図られている。 令和4年度は、5校(黒島小中学校・鳩間小学校・竹富小中学校・小浜小中学校・上原小学校)で実施し、それぞれの教室で子どもたちの知識や技能の向上が図られた。			
	A	【課題等】 ①ボランティアで運営協力していただける方や教育活動サポーター、講師等の人材確保にも引き続き努めなければならない。 ②竹富町子ども・子育て支援事業計画では、放課後の子どもの居場所づくりに対する方針について、放課後子ども教室の取り組みを充実することで、放課後児童クラブ(放課後児童健全育成事業)を補完するとしていることから、各地区で取り組むことができる体制を確保する必要がある。取り組みへの理解を深めるための周知方法も検討しなければならない。		
外部評価	A	本町においても核家族化が進み、子供たちの放課後の過ごし方をどう安心、安全に進めるかを考える必要があり、継続して行われている本事業は家庭からも評価されていると考えられる。特に、地域の子は地域の宝としての昔からの気概があり、本事業も地域の協力なしでは成り立たない事業である。ただ、課題にある通り運営協力者の人材不足があり、その分教師が中心となり学校現場にしわ寄せがないか懸念もある。今後は各地区で地域の力を活用した本事業の推進が必要だと考える。また、各地区でなされた本事業の成果発表会等も考えて欲しい。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	生涯学習委託事業(社会教育学級)		担当課	社会文化課
事業費	令和3年度実績額	令和4年度実績額	令和5年度予算額	
	71 千円	873 千円	900 千円	
事業概要	町民の生涯にわたる学習の機会を充実するため、委託事業者が社会教育事業を開設し、運営に必要な経費の定額を支給する。			
(1)対象	町民(町内の社会教育関係団体)			
(2)目的	青年教室・婦人学級・家庭教育学級室・成人大学講座を各種団体へ委託し、生涯学習の機会を提供する。			
(3)事業内容	【令和4年度実施学級及び団体名】= 6教室 ■婦人学級=2教室・青年学級=2教室・成人大学学級=2教室 ・上原婦人会(スディナ学級) ・豊原婦人会(豊原口説を通して持続可能な地域作り学級) ・白浜青年会(みんなで創る地域の環(わ)学級) ・細崎青年部(威力ある住みやすい地域作り学級) ・祖納公民館(真山学級) ・黒島老人クラブ(黒島の御嶽めぐり学級)			
(4)成果目標	・それぞれの講座及び教室終了後、地域のリーダーとして生涯学習の実践者になっていく。 ・地域において学習の成果をさらに広めていく。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 地域特性や人材を生かした計画を立案し、生涯学習の場として各年齢層が繋がりを持った活動が行え、地域の活性化も図られた。また、各教室の活動は地域の歴史や文化、伝統芸能等の習得・継承に大きく貢献できている。			
	【課題等】 事業実施(計画立案を含む申請～活動運営～実績報告)について、申請手続きの簡素化等を検討し、多くの団体が本事業を活用しやすいように周知を継続的に実施しなければならない。			
A	新型コロナも落ち着き、各地域で学級の取組が進んでおり令和5年度は全体で8団体の申請があります。(婦人4学級・青年2学級・家庭教育1学級・成人大学1学級)			
外部評価	本事業は社会に出てからの学び直しリカレント教育の一貫でもあり、生涯学習の中心となる部分であり、今後とも継続して推進する事業で評価できる。地域コミュニティの継続にもなり、地域文化の継承にも役立っていると考え。今後は各島々の団体が気軽に本事業に参加できるシステム作りも必要であり、地域への周知も継続して行っていく。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	社会教育団体育成補助事業		担当課	社会文化課
事業費	令和3年度実績額	令和4年度実績額	令和5年度予算額	
	2,733 千円	3,055 千円	3,355 千円	
事業概要	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助			
(1)対象	各種社会教育団体(公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等)			
(2)目的	各種団体における学習機会の提供と自主的な活動を支援し、豊かな人間性と団体の資質向上を図ると共に地区の活性化を図る。			
(3)事業内容	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助			
(4)成果目標	各種団体への活動支援を目的とした育成補助を行い、団体の資質向上と指導者の育成を図り、各種団体の活性化を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 各種団体へ補助金として交付することにより、創意工夫した活動が展開され、地域貢献や人材育成へ活かされた。青年団協議会が新型コロナの影響で活動ができていない状況である。新型コロナにより幼い子供たちの育児の為に控えていると思われる。			
	【課題等】 各種団体の取組みについて、社会教育委員又は社会教育指導員が積極的な指導助言等を行い、活発な活動が実施できるよう環境づくりを含め継続的に支援する。			
外部評価	A			
	社会教育団体が活動の場を広げるには、どうしても予算の裏付けが必要であり本事業がそのバックアップになっており継続して推進して欲しい。また、地域と地域を結ぶ役割として、町教委に設置されている社会教育委員や社会教育指導員の積極的な活用も必要であり、社会教育が全般的に発展できるよう今後の改革を期待したい。			
外部評価	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町球技大会		担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	0 千円	850 千円	1,500 千円	
事業概要	お年寄りから青年層まで、気軽に参加できる競技種目を設けることにより、スポーツを通して、町民の健康増進と交流の機会を創出する。			
(1)対象	・竹富町に住民登録を有する者 ・アマチュア競技者			
(2)目的	町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し開催する。			
(3)事業内容	・ソフトボール ・ソフトバレーボール ・グラウンドゴルフ			
(4)成果目標	大原中学校を主会場に三会場で実施し、町内の各公民館から選手及び、応援団が参加することにより、スポーツを通して町民相互の親睦を深める機会とする。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、町民がスポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し毎年開かれている事業である。町民が一堂に会する機会が少ない本町に於いて、毎年開催している本球技大会が、スポーツを通して町民相互の交流を深める良い機会となっている。			
	【課題等】 ① 毎年競技力は向上し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図ることは浸透してきたが、高齢者向けの種目の選定と多くの町民が参加できる種目の選択が必要とされる。			
外部評価	A			
	コロナ禍で開催できなかった本事業が再開でき、町民の健康と体力の増進を推進する事業として継続されていることは望ましいことである。課題としては、競技種目を高齢者や障害を持った人にもチャレンジできる種目を今後考える必要がある。特に、パラリンピック等から注目されているスポーツ競技を町体育協会などと連携して、競技の普及も考えて欲しい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会		担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	0 千円	2,000 千円	2,500 千円	
事業概要	島の未来を担う少年少女たちが野球を通して幅広い”交流”をはかり、友情を育むとともに夢と希望と勇気をもつことの大切さの実感、郷土を思う誇りと心を醸成し、島の活性化、人づくりに資する。			
(1)対象	竹富町立中学校(代表選抜)			
(2)目的	地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流を図ることにより、新たな人間形成や健全な青少年の育成を促進することで、将来を通じた離島地域の振興に寄与することを目的とする。			
(3)事業内容	野球大会・交流試合・さよならパーティー			
(4)成果目標	離島甲子園に出場できることに感謝の気持ちを忘れず、大好きな野球ができる喜びを感じながら、元気よく伸び伸びプレーし、離島中学生との交流の輪を広げる。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① チーム名「西表ヤマネコ・ティダボーイズ」 本大会は、新潟県佐渡市で開催され、本町中学生18名が参加した。6度目の出場となり、念願の初勝利を目指すも、惜しくも勝利はできなかったが、日頃味わうことのできない緊張感のなか、試合に取り組めた。試合後には、プロ野球OB会による「野球教室」や「さよならパーティー」が行われ、プロのレベルを肌で感じ、また他チームとの交流も図られ、新たな体験となり財産となった。			
	A	【課題等】 ① 竹富町代表として出場しているが、現状は大原中と船浦中の2校のみ参加している。他の離島でも野球に興味はあるが、野球をする環境がない中学校もある。その学校の生徒も参加できるような取り組みが課題となる。		
外部評価	離島へき地なため、様々な競技への参加やチーム編成などで苦慮する場面が多々あり、本事業は直接県外の生徒と交流できる画期的な事業である。この体験がいずれは経験の知識となり、社会に出てからの「生きる力」としての財産となり得るだろう。今後は、野球のみならず他の競技で同じような企画があれば積極的に参加できるようなシステム作りを期待したい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	やまねこマラソン大会	担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	0 千円	2,500 千円	2,500 千円
事業概要	西表島特有の大自然を活かしたマラソンコースを設定し、町民をはじめ全国からのジョガーと沿道の地域住民ボランティアの応援・声援で大会を盛り上げる。また、レース後は「ふれあいパーティー」を企画し、参加者、大会関係者スタッフ、住民との交流の機会を創出する。		
(1)対象	・ 3km(八重山郡内の中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(2)目的	日頃から健康ジョギングで体力づくりに励んでいるスポーツ愛好者を迎え、「世界自然遺産の西表島をさわやかに走ろう」を提唱し、さわやかな汗で健康と体力増進及び青少年の健全育成を図るとともに、スポーツイベントによって交流の輪を広げ、地域の活性化を図り本町のさらなる発展を目指す。		
(3)事業内容	・ 3km(中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(4)成果目標	大会開催も第28回を数え、全国的にも知名度の高い大会である。出場選手に満足してもらえるよう、コースの安全性を含め職員、地域ボランティアを動員して大会の運営にあたる。また、大会に欠かせない、ふれあいパーティーの企画も各種団体との連携により、地域活性化が図られる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 本大会で、28回を数える記念大会となり、本町に於ける一大スポーツイベントとなっている。1,111名の参加申込があり、出場者959名、完走者916名、完走率95.5%という非常に高い完走率を記録した。競技後のふれあいパーティーも好評で、選手だけでなく子供から高齢者まで大勢の人が楽しめるイベントである。 ② 本大会は、土曜日開催の大会と事前から町のホームページやマラソンガイド等広く紹介するなど、県内外の参加者や宿泊需要は大きく地域の経済効果にも寄与している。		
	A	【課題等】 ① 毎年、県内外から多くの参加があるものの、会場及び宿泊施設のキャパシティに限界がある。また、冬場の開催で船便が、大原航路となる場合があることから、選手の移動をいかにスムーズに行えるかに苦慮している。	
外部評価	コロナ禍で開催できなかった本事業が、感染拡大を防ぎ成功裏に開催できたことを大いに評価したい。地域活性化の事業として定着し本町をアピールする大会であり、八重山圏域のマラソンとして県内外からの参加者が多く集う大会が28回継続している事に、町民初め町職員の努力に敬意を表したい。運営面を考えると大変な事業であるが、他の部局との連携なしでは開催できない事業のため、今後も役場全体のイベントとして協働体制を維持してもらいたい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	文化財美化保全事業 (沖縄振興特別推進交付金)		担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	3,260 千円	3,260 千円	3,722 千円	
事業概要	指定文化財の美化・保全			
(1) 対 象	竹富町内の国指定文化財、沖縄県指定文化財、竹富町指定文化財 文化財候補地			
(2) 目 的	指定文化財の利活用を図るために美化・保全を行う。本町の有する多くの文化財美化保全を推進し、本町特有の歴史文化や景観を恒久的に維持し、歴史文化財を活用し、観光資源として活用し地域の文化財保護振興を図る。			
(3) 事業内容	文化財指定地において、雑草や雑木の除去作業等の美化・保全を行い、見学者及び観光客に利用しやすい環境を整備する。			
(4) 成果目標	地域の文化財愛護の意識高揚が期待されるとともに、指定文化財等が生涯学習の場として活用されることや、来訪する観光客の満足度が高まることを期待する。指定文化財22箇所、指定候補文化財9箇所の美化保全清掃を実施する。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ・沖縄振興特別交付金事業により、町内各地に所在する文化財の美化保全事業として清掃を行った。 竹富島 ⇒小城盛、西棧橋、蔵元跡、新里村、ミーナ井戸、トゥンナ井戸、コントウ井戸 ナーシ井戸、ガイセン井戸 西表祖納⇒大竹祖納堂儀佐屋敷跡、慶来慶田城翁屋敷跡、大平井戸、タブの老木 上村遺跡内古道、新盛家住宅 鳩 間 ⇒東井戸、西井戸、鳩間中森 黒 島 ⇒プズマリ、伊古棧橋 波照間 ⇒下田原城跡、シムスケー、コート盛 新 城 ⇒タカニク、ターヌホー道、クイヌパナ、クイヌパナ道 小 浜 ⇒大岳、カンドウラ石および節定め石、コーキ原遊歩道			
	【課題等】 今年度より小浜公民館が文化財美化保全事業に加わり、竹富町内全島での事業実施となったが、西表島東部の美化保全活動が未実施となっているため、今後は古見のサキシマスオウノキ群落・仲間川天然保護区域・忘勿石遊歩道などの美化保全も勧めていきたい。			
外部評価	これまで同様に文化財の美化保全は、本町の歴史と文化を後世に伝える事業として重要な事業であり事業が継続して達成されたことを評価したい。特に指定文化財は経年劣化が進んでいくため、保全を含めた美化活動は積極的に進める必要がある。今後は地域全体が文化財に関心を持つ機会を多く設定し、学校とのタイアップで文化財マップが作成されれば、観光資料としても役立つことが考えられるため、本事業の広がりを検討して欲しい。			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統的建造物群保存地区の景観保全	担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	21,691 千円	26,720 千円	13,697 千円
事業概要	伝統的建造物群保存地区における修理や修景及び現状変更行為に対する許可や指導等		
(1) 対 象	竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区		
(2) 目 的	重要伝統的建造物群保存地区(昭和62年4月28日)の選定を受けた竹富島の集落景観、その価値を維持するために必要な事業を行う。		
(3) 事業内容	竹富島の集落景観を構成する建造物等のうち、歴史的な景観価値を有する保存物件の保存修理工事の補助や、修景が必要な物件の修景工事を補助することによって、集落景観の保全を図る。		
(4) 成果目標	老朽化が進む保存物件の修理を進めるとともに、現状変更行為に対して適宜指導を行い、景観保全を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①竹富町竹富島重要伝統的建造物群保存地区・保存対策費補助事業として、屋根赤瓦葺き板壁張りの保存物件4件(トー1件・フーヤ3件)の修景に係る補助金交付。 ②年度内に2回の審議会の開催。 ③台風の影響や経年劣化による保存物件の瓦ズレ等の修理の申請があった。		
	A	【課題等】 ①保存修理に必要な保存物件が多数残されているが、所有者本人の負担も大きい事が支障となっている。 ②台風や大雨などにより保存物件に被害があった場合でも国庫補助金申請から工事着工まで約2年かかる。2年の間、被害にあった物件を放置しておくことは被害の拡大に繋がり、保存物件の消失にも繋がりがねないため、迅速な修理措置が必要である。国庫補助の補助金交付までの繋ぎとして、町独自の補助の仕組み等を検討する必要がある。	
外部評価	重要伝統的建造物群保存地区の歴史的景観を維持する本事業は、沖縄県全体を含む家屋の建造を後世に残す上での重要な事業であり継続して事業が展開されていることは良き評価である。年2回の審議会を含め島内住民とのコンセンサスが必要な事業であるため、引き続き連携した取り組みを続けて欲しい。また、課題である予算面や資材の確保についても継続して努力して欲しい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業	担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	16,720 千円	1,124 千円	4,463 千円
事業概要	アナログ資料のデジタル化および、わらべ歌等の収集を行う		
(1) 対 象	竹富町内の文化財等		
(2) 目 的	施設整備に先立ち、年長者からの方言を含む聞き取りや地域に残る文化財の調査を実施し、その結果を地域住民や国内外へ公開・発信することで、地域固有の伝統文化の伝承のほか観光客の来訪促進を図る。		
(3) 事業内容	R3年度の基本計画の提言に基づき、年長者から地域に残るわらべ歌等の聞き取り・記録調査及び映像資料のデジタル化を行った。		
(4) 成果目標	公開に向けた資料収集の完了及び、映像資料のデジタル化		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 令和3年度の提言を受け、令和4年度は年長者からわらべ歌・方言等地域の無形文化財の資料収集を行った。事業の実施にあたり、学識経験者・町内各団体の長等からなる展示検討委員会を1回を開催し、助言を受けながら計画どおり事業完了を行うことができた。		
	【課題等】 R3年度の提言に基づき、施設の整備に先駆け、古老からの聞き取り等、失われつつある貴重な文化の伝承に取り組んだ。R4年度は竹富島を対象として実施したが、予想を超えるわらべ歌等が残っており、年度内で全てを聞き取ることは不可能だった。特に、わらべ歌を歌える人は1名しか残っておらず、緊急を要することがわかった。さらに、アナログ資料についても想定していた数の数倍の貴重なカセットテープ等の情報があつたため、R5年度も引き続いて竹富島の資料をデジタル化するとともに、島と教育委員会双方で保管し活用できる素地を作る。今後は、デジタル化の進め方のほか、文化財レッドデータに関して、どのように進めていくのかについても検討していく必要がある。		
外部評価	本事業への提言に基づき、R4年度は事業内容が施設整備に先駆けて失われつつある本町のわらべ歌・方言等を各地域で資料収集が行われた事業を評価したい。特に、これまで口述でしか伝えられなかった歌や方言等も多々あることから、消滅しない前に緊急な情報収集が求められる。また、各島に伝わる方言は、町独自でも無形文化財として取り上げ、後世に残すことも考えて欲しい。情報がほとんどアナログであるため、デジタル化も急ぐ必要がある。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	埋蔵文化財の保護		担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	18,370 千円	7,200 千円	100 千円	
事業概要	埋蔵文化財の調査及び諸開発に伴う事前調整や指導			
(1) 対 象	周知の埋蔵文化財及び不時発見の埋蔵文化財			
(2) 目 的	地中に刻み込まれた文化財である埋蔵文化財は、諸開発によって失われるおそれが高いため、分布状況や保存状況等の情報を把握しておくために必要な調査等を行う。			
(3) 事業内容	諸開発事業に伴う埋蔵文化財の有無確認調査や、必要な措置がある場合はその指導を行ったり、記録保存の必要な埋蔵文化財や重要な遺跡については、発掘調査を行うことによってその埋蔵文化財の保護を図る。			
(4) 成果目標	埋蔵文化財の保護が後手にまわらないよう、適時対応するとともに、これまでの調査成果資料の整理を進める。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 南風田原遺跡試掘調査(小浜島) 慶来慶田城遺跡試掘調査(西表島)			
	【課題等】 ①農業基盤整備事業に伴う試掘調査を行った。今後は、担当課と調整のうえ、発掘範囲を絞り込み、事業に遅れが出ないように進める。 ②工事等事業計画が出来上がってから、埋蔵文化財の照会が行われることが多い、埋蔵文化財の範囲もしくは隣接地内で事業計画がある場合、試掘調査や発掘調査などを行わなければならない場合もあるため、事業計画がストップしてしまうことがある。そのため、役場内の開発関係課や不動産会社等に事前の埋蔵文化財照会や事前協議を行ってもらえるよう、事業計画の把握やフローチャートによる周知を行う必要がある。			
A				
外部評価	埋蔵文化財は地中にあるため、どうしても土地の開発事業とバッティングすることは仕方がないことである。特に、工事の遅れを伴う発掘に関しては試掘だけでも困難を期する事業であるため、他部局との連携は必須と考える。今後とも調査が後手に回らないように、開発地域からの情報を的確に把握して埋蔵文化財の調査研究を継続して進めて欲しい。R5年度に専門員が配置されたことは大きな評価として上げたい。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	史跡等活用整備事業 (史跡の調査及び修理工事・看板設置)		担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	41,313 千円	37,306 千円	12,721 千円	
事業概要	史跡の調査及び修理工事と説明板設置			
(1) 対 象	町内史跡や国指定史跡の調査及び修理、説明板設置			
(2) 目 的	町内に多く残る史跡は、指定の有無に関わらず地域の成り立ちや文化を伝える貴重な地域遺産である。史跡の調査や修理を行い説明板を設置することで、後世へ継承する。			
(3) 事業内容	毀損した史跡の修理や、町史跡の調査等を行う。			
(4) 成果目標	貴重な史跡が滅失しないよう適時対応するとともに、測量等で事前に記録を残すことで不測の事態にも対応可能な資料作成する。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ①国指定史跡先島諸島火番盛小城盛解体工事(竹富島) ②国指定史跡先島諸島火番盛コート盛学習説明板設置(波照間島) ③国指定史跡先島諸島火番盛ブズマリレーザー測量業務(黒島) ④国指定史跡先島諸島火番盛整備基本計画			
	【課題等】 ①火番盛は各島々に点在しており、整備等が急務となっていることから整備基本計画を策定し、今後の整備方針を検討した。 竹富島の小城盛では解体工事を行い、作業員に地元の人を入れるなど石積み技術の継承を含む事業を行った。 文化財の工事は土木工事とは異なり、伝統的な仕様や過去の痕跡調査等を行いながらの工事となり、伝統的な工法の継承が重要であるが、後継者がいないという課題が生じている。			
外部評価	本町における往時の海上渡来の歴史を残す上で火番盛は重要な遺跡であるため、本事業における復元、修理は引き続き行われていかなければならないと考える。特に石積みの技術の継承は喫緊の課題でもあり、社会教育の一つに取り上げその技術の継承を各島々に残していくことも必要である。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	史跡等活用整備事業 (下田原城跡私有地の公有化)		担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	921 千円	7,498 千円	7,384 千円	
事業概要	下田原城跡買上げ事業			
(1) 対 象	下田原城跡私有地の公有化			
(2) 目 的	下田原城跡は相続関係が複雑であることから買取りが進まず、指定から15年以上たった今もそのほとんどが民有地となっている。時間の経過とともに相続が増え続けている事から、早急に買上げを行い史跡の調査・維持管理を行っていく必要があるため買上げを行う。			
(3) 事業内容	国指定史跡下田原城跡の土地を公有化する			
(4) 成果目標	土地の公有化			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ①史跡中央部にある共有地の買上げが終了した。 令和4年度は下田原城跡の西側部分を中心に9筆について土地鑑定を行い、前年度土地鑑定済みの土地2筆を含め、登記移転が終了した土地から、適正な価格で買上げを進め、8筆の買上げを行った。			
	【課題等】 ①教育委員会所属の登記嘱託員により、相続登記等土地の買上げに関する手続きが円滑に進むようになった。 公有化後は本来見えていたであろう海が見えるように、また、石積み遺構を壊さないよう城跡内の樹木を整理し、案内板の設置等を含む地元の人や観光客が学習できるような活用を行っていく。さらに、公有化ができた段階で発掘調査を行ってきたい。			
外部評価	長年の懸案であった史跡の私有地買上げが順調に進んだことを大いに評価したい。今後は更なる整備計画をいち早く作り、この史跡が波照間島の観光名所として多くの人々に紹介される日を心待ちにしたい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町史編集事業		担当課	社会文化課
事業費	令和3年度実績額	令和4年度実績額	令和5年度予算額	
	8,207 千円	1,782 千円	1,272 千円	
事業概要	『竹富町史だより』(第50号) (第51号) 発刊			
(1) 対象	竹富町民、一般人、研究者			
(2) 目的	竹富町の先人たちが築いてきた特色ある町の歴史や自然を島々の個性を際立たせて位置付けながら、編集・発刊を行うこと。それにより町民一人ひとりのみならず、竹富町の先人の顔を思い浮かべることができる親しみやすいものとする。これらが竹富町のかげがえのない共有財産として後世に引き継がれ、豊かな町(島)づくり、人づくりに資することを目的とする。			
(3) 事業内容	竹富町史刊行物の編集・発刊			
(4) 成果目標	地域を知るための基礎資料として活用され、かつ学術的にも信頼される町史編集事業			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 『竹富町史だより』は町民を対象とした機関誌である。町内全戸に配布し多くの方々の手に渡ると同時に、広く町史編集事業をアピールできた。 〈第50号〉は写真家・倉橋正氏からの寄贈写真「竹富島 本土復帰の日」(350枚)と、これに関連する論考・資料により構成した。そのことにより沖縄の本土復帰時の竹富島を浮き上がらせることができ、広く報道もされた。その後、竹富島での写真展や庁舎ロビーでの写真展に展開できた。 〈第51号〉は波照間島に焦点をあてつつ、「竹富公民館資料」の翻刻、「西表開発に関する資料」「西表島古見村に関する資料」などの目録を作成し、今後の竹富町史編集事業に資する基礎的なデータを提示することができた。			
	B	【課題等】 基礎資料を整えると同時に、「島じま編」の編集・発刊を進めていくにあたって、スケジュール管理が大きな課題である。当初計画していた『竹富町史 第八巻 西表島』の刊行については、部会長・石垣金星氏の逝去により、章立ての再構成を迫られ、新たに執筆者を依頼するなどの課題が生じ、刊行に至らなかった。		
外部評価	本事業の進捗が思わしくない事は、ヒアリングや内部評価を見て承知した。今後は新たな執筆者の選定を急ぎ、町史編集のスケジュールが取り戻せるように努力して欲しい。史書は編集が遅滞すればするほど、内容の面にも支障をきたすためよりスピード感を持って本事業に当たって欲しい。			
	B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校等施設の維持管理		担当課	総務課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額	
	113,169 千円	45,804 千円	6,096 千円	
事業概要	学校施設等の修理・修繕及び維持管理上必要な施設の整備			
(1)対象	竹富町立幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場及び教員宿舎			
(2)目的	学校施設等の中には、経年劣化や自然災害等によって園児及び児童生徒の安全・安心が失われるおそれがあるため、修理や修繕等の整備を行い、学校環境の安全・安心を図る。			
(3)事業内容	学校施設等の現況を調査し、破損箇所や腐食した箇所を修理・修繕し、安全・安心な学校環境の維持・管理。			
(4)成果目標	年次的に学校施設等の修理・修繕等を行い、快適で安全・安心な学校環境の整備を進める。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 令和4年度においては、幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場・教員宿舎等、緊急的なものを優先し修理・修繕等を行ってきた。 ② 危険建物となっていた船浮中教員宿舎4号棟の解体工事を行った。			
	A	【課題等】 ① 多くの修理・修繕箇所の要望があり、予算を確保しながら学校環境の整備を図るとともに、本町公立学校施設整備事業長期計画を作成し、安心・安全・快適な学校施設など教育環境の充実に努める必要がある。 ② 公共施設等管理計画に基づき、建物の長寿命化にむけた個別施設計画の策定に必要な情報の整理が急がれる。		
外部評価	塩害等が激しい本町においては、学校施設の劣化も早く各学校からは修理・修繕の要望が多くある事は歪めない。多くの予算を必要とするため、町教委としては各学校に優先順位を明らかにして、きめ細かな説明をして欲しい。また、子供たちの安心安全を確保する上でも、各学校における日頃の安全点検実施を指導し、事故が起きないように周知徹底も必要である。今後は、長期的な予算確保のためにも、設備の長期計画を策定し先を見据えた予算確保に当たって欲しい。			
	A			

令和4年度 教育事務点検総合評価

■教育委員会の機能充実

総合評価	[A]	・コロナ禍が落ち着いて来たとはいえ、この間教育へのダメージは軽くはなく、今後の教育の在り方に関しても更なる努力が望まれる事となる。これを受け教育委員会は地域の特色や課題を踏まえたカリキュラムの開発や地域との連携を更に密にした。総合的な教育を目指す必要がある。R4年度においては「子供は地域の宝」を念頭に子供に「生きる力」を身に付け、本町の課題である15歳からの自立をサポートする学校教育が達成されており大いに評価できる。今後は社会形態を支える「人材育成」を目指し、本町の特色を生かした学校教育の推進を期待したい。 ・社会教育においてはコロナ禍で出来なかった事業が概ね再開されており、町民の生涯学習を推進する施策が進められている事も評価できる。今後は社会全体が求めている生涯教育の長期的な計画を作成し、文化・スポーツ面を含め町民のニーズに応える施策を進めて欲しい。また、大きな課題である、学校施設等の維持管理にも修理・改築等の長期的なビジョンを持った計画の作成も必要だと考える。
1 教育委員会の概要	[A]	・教育委員会制度の意義を踏まえ、地域の教育ニーズや課題を的確に把握しており、複雑化・多様化する地域の教育課題解決に努力している。特に、独立性と教育長を中心とした本町の実情をよく知る教育委員を含めた合議制(レインマンコントロール)で委員会が運営されている事は望ましい事である。 ・教育主要施策も国や県との整合性が図られ、かつ、本町独自の教育施策も盛り込まれており、「生きる力」を身に付け、多様な学び方を支える施策が途切れずに推進されている。
2 教育委員会の概要と会議の状況	[A]	・定例会や臨時会が計画に基づき、開催されて事は望ましい事である。今後とも最終的な事務点検者としての役割を発揮できるよう活気ある会議を推進し、町全体を俯瞰した教育行政がスムーズに展開できるよう指導助言を行って欲しい。 ・前年度まで大きな課題であった、首長を含めた「総合教育会議」が開催された事は大きな進歩である。今後も年度の前期・後期など年2回の会議が開催されることを望みたい。特に緊急を要する事案等に関しては、迅速に会議が開催されるよう常に準備しておく必要もある。
3 教育委員会の情報収集状況	[A]	・コロナ禍のあと施設等の学校支援訪問が実施されて良い傾向にあるが、要望訪問だけではなく、学校事故を防ぎ安心・安全の環境設備を整えるためにも、積極的に施設の老朽化を把握する数多くの訪問を期待したい。 ・教育委員会自体が学びの姿勢を持ち、常に教育行政の発展を期するためにも多くの研修への参加が望まれる。R4年度においては多くの学校行事への参加や、教育長の数多い研修参加は大いに評価できる。教育におけるDX化が進むにつれ、本町の教育行政もアンテナを高く広くし、新しい情報をキャッチしなければならず、国、県の動向をいち早く得ながら教育行政を進めて欲しい。
4 教育委員会事務局の組織及び職員配置	[A]	・現在の3課体制が維持されている事は望ましい事であり、年々教育に対する町民のニーズが多様化し課題も少なくない中、各課がその役割を果たしている事は評価できる。 ・人員に関しては、文化財係に専門職員が確保できた事は大きな成果であり、今後とも欠員が出た場合の対処にも力を尽くして欲しい。
5 教育行政	[A]	・教育委員会がなすべき、地域の学校教育、社会教育、文化・スポーツ等の関係事務の遂行が漏れなくなされており、また、学校・地域への指導や助言も的確に行われており教育行政がスムーズに運用されていることが分かる。 ・教育予算に関しては、財政部局への要望予算が全て通る事は難しいと思うが、他部局との連携を図りながら予算確保に努めて欲しい。大きな予算となる施設管理等に関しては長期的な計画を策定し、施設の建て替え等の準備にも努力して欲しい。

■幼稚園・学校教育の充実

総合評価	[A]	幼稚園運営において人材確保が喫緊の課題という厳しい状況下にあるが、保護者のニーズに寄り添う保育の推進が図られているので、今後、子育て支援員(研修済み)の活用等の人材確保も検討する余地はあると思います。 小中学校学力向上推進の取り組み成果は各種調査の結果に表れており、各島における学校と地域が連携した児童生徒の健全育成の成果と捉えています。今後、地域の特性を生かしたコミュニティ・スクールの推進を検討することも考えられます。また、中学卒業後、親元を離れた環境下においても自分らしく、たくましく生きていける人材の育成につなげるために、子ども一人一人の個別最適化を図りながら創造性を育む教育の充実に努めてください。さらに、子どもたちの豊かな学校生活を保障するための基本となる学校給食においては、保護者の負担軽減と財源確保の継続に期待します。
------	-------	---

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	小学校集団宿泊学習	担当課	教育課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	0 千円	48 千円	486 千円
事業概要	21世紀を担う竹富町の児童が、自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境で、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、交流を通してよりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を行う。		
(1) 対 象	竹富町内小学校5年生		
(2) 目 的	① 恵まれた自然の中での集団宿泊活動を通して、見聞を広め自然に親しむ。 ② 竹富町内の小学5年生が寝食を共にすることによって、友人を増やし友情を深め合う。 ③ お互いの島の様子や竹富町の様子を知り、郷土に対する理解を深める。		
(3) 事業内容	① 集会活動(オリエンテーション、レクリエーション、班会議、平和学習) ② 体験活動(カヌー体験、野生動物保護センター見学、星空観察)		
(4) 成果目標	① 島外の同級生と交流を図ることにより、コミュニケーション能力を育成する。 ② 体験活動を通して、道徳観・正義感を育成するとともに、生きる力を身につけさせる。 ③ 平和学習を通して、命の尊さについて理解を深める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から1度延期し、ぎりぎりまで準備を進めていたが、延期日程でも中止。 ※担当者会議、事前準備のみ実施		
	【課題等】 ① 感染対策を講じた上での実施を検討。 ② 予備日も含めた日程の調整。		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	第20回竹富町町民運動会	担当課	社会文化課
事業費	R3年度実績額	R4年度実績額	R5年度予算額
	0 千円	111 千円	0 千円
事業概要	お年寄りから青年層まで、気軽に参加できる競技種目を設けることにより、スポーツを通して町民の健康増進と交流の機会を創出する。		
(1)対象	・竹富町に住民登録を有する者 ・アマチュア競技者		
(2)目的	町民にスポーツ・レクリエーションの機会を提供し、各人がスポーツを楽しみながら、心身共に健康で明るく、豊かな住みよい町づくりに努めるとともに、スポーツを通じて相互の親睦を図るために実施する。		
(3)事業内容	・30M走 ・大玉転がし ・50M走、100M走 その他15種目		
(4)成果目標	大原中学校を主会場に実施し、町内の各公民館から選手及び、応援団が参加することにより、スポーツを通して町民相互の親睦を深める機会とする。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からぎりぎりまで準備を進めていたが、中止となった。※担当者会議、事前準備のみ実施		
	【課題等】		
外部評価			

